

本研究を進めるにあたり、有益なコメントをいただいた北見工業大学の庄子仁教授、八久保晶弘准教授、北海道大学の内田努准教授に深くお礼申し上げます。また、査読過程で、2名の査読者の方々からは的確なご指摘を賜り、感謝申し上げます。

改めまして、この受賞に感謝致しますと共に、この受賞を励みとして、今後も一層の努力を重ね、研究に取り組んで参る所存です。今後も皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

功 績 賞 を 受 賞 し て

株式会社 応用気象エンジニアリング
代表取締役社長 高田 吉治



この度は、2010年度の日本雪氷学会功績賞をいただき、有難うございました。私の研究、開発を支援していただいた学会の皆様方や、元建設省・道路公団の雪氷関連の方々に厚くお礼申し上げます。

九州大学農学部気象学教室に勤務していた時代には、農業気象（微気象）の研究はもとより、電力気象・水気象の研究、初期の人工降雨の研究・実験を手がけていました。人工降雨の研究は雲物理から始まります。沃化銀やドライアイス、液体炭酸などの擬似氷晶核を用いて、適正な量の氷晶を積乱雲（過冷却雲）の中に作る研究を行ったのが雪氷との出会いです。

シャープ株式会社には招聘された昭和41年は、大雪の年で、米原の道路上に一晚で80cm積まりました。道路の降雪・積雪除雪後の路面凍結防止対策に関する研究、調査が、国道1号、名神高速道路で始められ、参画したのが道路気象研究の始まりです。

それまで無かった道路気象の研究に取り組み、国道1号線鈴鹿地区、名阪国道針PA、名神高速道路の秦庄PA、関が原地区の今須、長良川橋などの各地点を皮切りに、熱収支観測を主体とした現地観測から始めました。

また、昭和42年から道路気象観測地点の選定根拠として、名神高速道路からサーマルマッピングを開発、実施してきました。

一方、道路の気象情報を的確に把握するため、名神高速道路において道路気象情報システムを開発し、全国の高速道路や、国道に実用化展開してきました。そして、これから得られる道路気象情報を、雪氷対策の効率化に反映させてきました。

道路の雪氷対策については、名神高速道路、東名高速道路、中央高速道路の建設、維持管理から始まり、その後の北陸道、東北道、北海道道などや、幹線国道、本州四国連絡橋等において検討してきました。

道路の気象・雪水分野は、除雪対策、路面凍結防止対策、濃霧や吹雪による視程障害対策、強風対策、大雨対策、トンネル内の気象障害対策や、高盛土の道路周辺に生じる冷気停滞・強風障害、雪崩対策などにおよび、全国各地で生じる多岐にわたる道路気象現象を解明し、各種の対策を検討、解析し、実用化してきました。

日本雪氷学会には、昭和41年頃に入会し、本部活動は、昭和58年頃から20年間ほど、企画委員、理事、監事、評議員を歴任してきました。法人化移行時には、本部監事としてお手伝いしてきました。

終わりに道路気象研究に対して、協力いただいた土木研究所、九州大学、シャープ株式会社、応用気象エンジニアリングなどの多くの方々には深甚の謝意を表する次第です。